

スペイン内戦下、パリでメキシコ総領事を務めたボスケスは以下のように続けます。ドイツ、オーストリア、イタリアの政治家に対する迫害や嫌がらせは非常に深刻で、彼らのために特別な方法で対応する必要がありました。逮

ナビゲーター

捕されないよう写真付きの書類を用意するため、スペイン人女性カメラマンと専用機材を確保していました。難民を脱出させるために、ときには深夜に撮影し、写真を補正し、別の名前を与える予

日本への期待 世界各地から

井
47

命がけで難民救つたボスケス

定の人を、強制収容所から助け出したこともあります。ドイツの著名人や反戦活動家、とにかく最も迫害されていたのが共産党の人たちで、彼らには警察やスペインが目を光らせていきました。共産主義者の送還リストを提出するよう依頼されても、政治的な偏見にどうらわれず、そういった人たちを助けなければならない、と関係者は理解していました。

1991年、最後のインタビューでビルベルト・ボスケス自身が語ったこれらの出来事は、時に忘れられがちですが、人類の歴史を変えた歴史の一幕を、現在に生きる私たちに思い出させてくれます。メキシコに脱出できたスペイン共和国人や、ボスケスがフランスからの出国を手助けした人たちの正確な数は不明ですが、4万人から5万人程度と推定されています。

メキシコは、独立以前から「命受け入れ国であり、例え南米の革命家シモン・ボリバルは、スペイン統治下の独立前のメキシコに滞在して

いました。スペイン内戦時代の難民に、メキシコ大使館に入れ、70年代には独裁政権から逃れた南米の人々もメキシコで安全を確保しました。

メキシコの「命法」の運用で、最も顕著な時期は、1934年から40年のラサロ・カルデナス大統領時代で、政治難民の保護に公式かつ積極的な立場をとっています。しかし、この政策はボスケスのよ

うな外交官の努力と命がけの取り組みなしには実施できなかつたのです。

ドイツに強制送還される予

事は、時に忘れられがちですが、人類の歴史を変えた歴史の一幕を、現在に生きる私たちに思い出させてくれます。メキシコに脱出できたスペイン共和国人や、ボスケスがフランスからの出国を手助けした人たちの正確な数は不明ですが、4万人から5万人程度と推定されています。

メキシコは、独立以前から「命受け入れ国であり、例え南米の革命家シモン・ボリバルは、スペイン統治下の独立前のメキシコに滞在して

いました。スペイン内戦時代の難民に、メキシコ大使館に入れ、70年代には独裁政権から逃れた南米の人々もメキシコで安全を確保しました。

メキシコの「命法」の運用で、最も顕著な時期は、1934年から40年のラサロ・カルデナス大統領時代で、政治難民の保護に公式かつ積極的な立場をとっています。しかし、この政策はボスケスのよ

うな外交官の努力と命がけの取り組みなしには実施できなかつたのです。

4月から紹介した日本の外

（月曜日に掲載）